

多角形EXセルの最新事例（応急対策工、床固工）

多角形EXセルは独立した八角形のセル殻ユニットからなる大型かご工です。
災害関連事業における応急対策工として施工した事例と、恒久施設の床固工として施工した事例、最新の2事例をご紹介します。

■ 施工事例1 応急対策工として施工した事例

発注者	静岡県 静岡土木事務所
工事名	慈悲尾東上沢災害関連緊急砂防工事
規模	本川高さH=3.0m、延長L=14.0m 支川高さH=3.0m、延長L=12.0m

当初は大型土のうを金網で被覆した工法が計画されていましたが、供用期間を長くしたいとの要望があり、多角形EXセルの流体力に対する耐荷性能、経済性に優れることが評価され採用されています。

また、中詰材に使用する割栗石の入手が難しいことから、セルユニット内側に吸出し防止マットを取り付け現地発生土砂を使用しています。施工期間は床付けを除いて本川が4日、支川が3日。迅速性を求められる応急対策工に適した工法といえます。



重機による中詰材の投入



完成 写真左が本川、右が支川

■ 施工事例2 恒久施設の床固工として施工した事例

発注者	長野県 木曽地域振興局
工事名	復旧治山事業第1号 上松町東野
規模	高さH=2.0m、延長L=13.0m

上流からの流出土砂により既設の谷止工の下流暗渠が閉塞、町道に土砂が流出した現場。岩砕系の流出土砂が中詰土として利用可能なことと、施工性がよく、衝撃力に強い点が評価され谷止工の上流側に床固工として採用されました。

施工期間は5日。施工業者の方からは、「従来のかご系商品と比較して、壁面材がしっかりしており、詰石作業が不要、中詰土を直接投入しても変形しないのが良い、組立ても簡単で予定より早く施工できた」と施工性を評価していただきました。

